



7/29動労千葉を支援する会 2023年度定期総会

動労千葉を支援する会 ニュース

2023.8.18
384

動労千葉を支援する会事務局
千葉市中央区要町2-18 DCC会館

Fax 0476(202)782200

メールアドレス dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

〒口座番号 0015013192036

支援する会が踏み出す一歩で

11・19労働者集会の大結集実現を

7月29日、2023年度動労千葉を支援する会定期総会が開催された。総会では山本事務局長が主催者あいさつを行い（別掲）、運動方針案を織田事務局次長が提起した後、動労千葉から関係委員長があいさつし、討論が行われた。

各地から活発な意見

討論では各地の参加者から様々な意見が出された。

新潟からは、11月集会の存在意義の大きさ、労働組合を回り国鉄闘争や物販の話をするこの重要さが語られた。また、取り組みに当たって、自分たち

の殻を破ること、「この人は無理だろ」と判断してしまうことを打ち破っていくこと、本気でやるということが強調された。また、自治体の自衛隊募集への協力という問題への取り組みが報告された。

木更津からは、久留里線廃線反対の取り組みの中で、住民説明会でも次々に反対の声が上がる地域の実情が語られた。「昼間に5時間も列車が走っていない」「使いたくても使えない」「子供が高校に久留里線を通っていたが、通学の足を確保するために廃線はやめてほしい」「赤字というのが駅の清掃も地域のボランティアで行っている」などの声が紹介された。

その他にも、組合回りの現状、墨東病院独法化撤回の闘い、西武・そごうでのストライキなどについて報告・意見が出された。

「闘いの先頭にたとう」

その後、今年度の役員体制が承認され神奈川の運営委員が、改めて物販の力の大きさとアポを取ることの重要性を強調し、「11月集会結集と戦争阻止、岸田打倒、社会を変える闘いの先頭に立とう」と訴えて総会のまとめを提起した。

第2部の懇親会では動労千葉の各支部組合員がお礼と決意を述べ、渡辺書記長が闘いの決意を語った。その後、運営委員の閉会あいさつ、団結カンパニーで総会は締めくくられた。

山本事務局長の主催者あいさつ

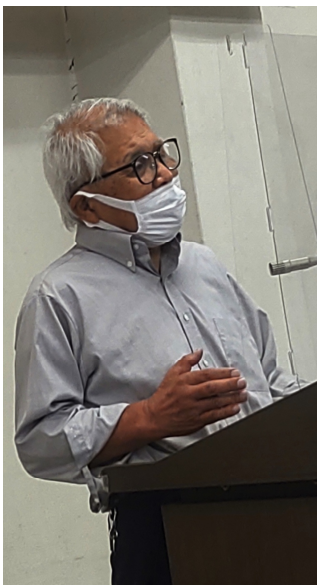
支援する会は結成から36年だ。動労千葉を支援し、闘いに学びながら闘ってきた。2003年のイラク戦争を契機として、労働者の国際連帯という領域まで飛躍できた。

私たちが基調とする闘いのベースは、動労千葉が切り開いた反合・運転保安闘争路線、それに裏打ちされた階級的労働運動だ。「敵を絶対に曖昧にしない」という運動、階級の一員としてその全体の利益のために闘い抜く、その路線を学び取って闘ってきた。

ウクライナ戦争が始まってから2度目の総会だ。軍拡と排外主義が世界を覆う中での総会だ。久留里線廃線化を突破口に房総半島南部の内房・外房線を含む廃線攻撃もその一環だ。

この情勢に掉さす方向に連合が動いている。連合の特に指導部は「雇用」を理由にすれば原発も戦争も徴兵も良いという方向に流れていつている。日本の労働運動を連合指導部に蹂躪させてはならない。

1047名解雇撤回闘争が本当に勝利まであと一歩」に来ている。その一



歩を具体的にどう突破していくかが問われている。物販オルグを徹底的に推進していくことを契機に連合支配を掘り崩していききたい。

動労千葉は闘いと組織を次の世代に継いでいく奮闘をしている。この心意気をつかみ切って、11・19日比谷野音を埋め尽くす具体的な構想を持って闘いに入っていきたい。

第4回外房線と地域を守る会総会を開催

7月23日、外房線と地域を守る会は、勝浦市内で、第4回定期総会を開催した。

ワンマン運転導入による安全性・利便性に関する千葉支社要請行動やローカル線廃線問題についての首長との懇談等を含めた活動の経過を確認するとともに、久留里線1房総廃線化阻止に向けて内房、外房、久留里の3会が一体となって取り組むこと、また、発足以来、7年間にわたって会長を務めた藤平さんが退任し、新たに早川新会長の選任を満場一致で確認するなど、外房線と地域を守る会は、新たな一歩を踏み出した。



地域に根ざした運動を

総会の冒頭、藤平会長は、「JRは人の生命の考えない会社だ。ワンマンで乗客が骨折してもホーム段差を改善する考えがない。それは地域を差別するJRのあり方だ。しかし、差別される地方の市民が行動を制限されていいの

か。いつも犠牲になるのは地方の市民だ。JRに対する小さな運動でも途絶えさせてはならない。ゴマメの歯ざしりという言葉がある。噛んで痛みを理解させ、政治に反映させる。内房、外房、久留里の会の運動を基盤に、地域に根ざした運動を進めよう」と訴えた。

線路を存続させ地域活性化を

来賓として、沿岸漁業の関係者から、漁業と鉄道を活用した活性化に関するあいさつが行われ、次に内房線と地域を守る会・梅澤代表、久留里線と地域を守る会・三浦代表からあいさつが行われた。

梅澤代表は、「久留里線が廃線協議の

対象になっっているが利用者が少ないのは私たちの責任ではなく、不便にし利用できないようにしたJRの責任だ。久留里線の廃線阻止へ、力を合わせて頑張りましょう」と訴えた。

三浦代表は、「今、久留里線が廃線のやり玉に上がっているが、認めることはできない。認めたら内房線や外房線へと拡大するからだ。線路を存続させ地域の活性化のためにも頑張りつきたい」と決意を明らかにした。

ビデオ上映後、議事に入り、23年度活動方針案等が提起され、質疑の後、一括して採択された。そして臨時幹事会を経て23年度の役員体制が発表され、新たに早川会長が選出された。また、7年間の長きにわたり会長を務めた藤平さんは顧問に就任した。

早川新会長は、「藤平さんのリーダーシップには及びませんが、幹事や会員、地域の皆さんの協力を得て尽力したいと思えます」と決意を表明した。

最後に、副会長から、「内房線、外房線、久留里の3会が呼びかける久留里線廃線に反対する集会が8月にも開催されます。外房線からも参加を」と訴え、第4回外房線と地域を守る会総会は成功裡に終了した。

なくすな！久留里線 8・27講演集会

JR東日本による久留里線廃線化攻撃に対して、久留里線と地域を守る会、内房線と地域を守る会、外房線と地域を守る会の3団体の呼びかけにより「なくすな！久留里線 8/27講演集会」が、8月27日、久留里駅前の上総公民館（上総地域交流センター）で開催される。支援する会も全力で結集し、地域住民と一体となり久留里線廃線を阻止しよう。

なくすな! 久留里線
8/27講演集会

日時: 8月27日(日) 13時30分~
会場: 船津市・上総公民館 3F
(上総地域交流センター)

船津市久留里市場 192-5
JR久留里駅前 徒歩すぐ
参加無料

講演「ローカル鉄道の価値」
~地域における鉄道の役割をあらためて考える~

講師: 伊藤 康氏
(千葉商科大学人間社会学部教授)

千葉商科大学人間社会学部教授、教育学部社会文化学専攻准教授、一橋大学社会学部、国立中央大学国際経営学部准教授、東京大学准教授、「国産経済研究」編集委員(第1号(2006/3))、東北大学地域研究センター准教授、同センター編集委員(第7号「ローカル鉄道の価値」)などを執筆。

内房線と地域を守る会
外房線と地域を守る会
久留里線と地域を守る会

連絡先: 久留里線と地域を守る会
代表 久松 久生
事務局 船津市 0476-81-8505
kaiurisen_107@yahoo.co.jp

沿線住民説明会

久留里線存続の声が圧倒!

JR東日本は、久留里線・久留里上総亀山間を対象にして千葉県と君津市に協議の申し入れを行い、5月に「JR久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議」を設置した。検討会では住民代表から「沿線地域で住民説明会を行ってほしい」との要望が出され、6月1日（亀山地区）、7月12日（松丘地区）、同15日（久留里地区）に説明会が行われ、各説明会には沿線住民などが詰めかけ「久留里線の廃線に反対」「久留里線の存続を」等の意見が相次ぐ状況だった。

久留里上総亀山間は昼間5時間半も列車が来ない。利用したくても利用できない。

豊かな観光資源を活かし、利用者の誘致をやってほしい。廃線にしないでほしい。

列車が久留里止まりのため（子供の）部活ができず悔しい思いをした。（亀山）
○国鉄分割・民営化時に「ローカル線廃止はしない」と言っていた。それでも廃線か。

○過疎化対策としても鉄道は活性化につながる役割を果たしている。

○シニアクラブで松丘駅を掃除している。駅は玄関だ。誇りを持っている。

JRは公共交通の考え方が薄れている（松丘）

る。

亀山でイベントがあっても帰る列車がない。使いたいが使いにくい。

地域の声を反映させるために検討会に久留里の会やローカル線を研究している学者を入れてほしい。（久留里）

ローカル線4割一房総廃線化を阻止しよう!

JR東日本が公表したローカル線の収支によって営業路線の4割を廃線にしようと狙っており、その最初の対象が久留里線・久留里上総亀山間になっている。しかも久留里線の廃線問題は、久留里線にとどまらず内房線・館山上安房鴨川間、外房線・勝浦上安房鴨川間の廃線化として波及しかねない重大な問題だ。

こうした中で今回、久留里、内房、外房の3団体が集会を呼びかけたことは、房総半島における廃線化攻撃を粉碎してローカル線と地域を守り抜くうえで極めて重要な闘いだ。

久留里線の廃線化攻撃粉碎! 8月27日の講演集会に総力をあげて結集しよう!

流すな汚染水！止めよう原発！ 千葉で集会とデモ

7月17日の「海の日」、千葉県弁護士会館で、「流すな汚染水！とめよう原発集会」が110名の結集で開催され、その後、東電千葉支社に向かつてデモが行われた。主催した「汚染水を流すな！千葉県実行委」には動労千葉も団体賛同し、4月29日の集会に続いて参加した。

集会では、原発事故で被ばくした牛を殺処分せず飼育を続けている福島県浪江の「希望の牧場」代表、吉沢正巳さん（四街道市出身）が講演し、事故直後の状況を説明し、「事故から12年が経過したものの、2万人が避難先から戻ってきていない」と、現在の福島の現状を報告した。そして、「いよいよ汚染水が流され始める。福島県民らの生活を直撃することになる」と切迫する放出策動を弾劾し、「決死救命団結！」、共に立ち上がろうと訴えた。

続いて、実行委員会の吉沢広史さんが、今国会で成立したGX法の悪辣性を暴露し、「脱炭素」を看板にして原発



の存続と原子力産業の拡大を狙っている事を明らかにした。
最後に集会決議文が読み上げられ、全体で承認された。後日、東電千葉支社と千葉県庁への申し入れ行動を行うことが提起された。

汚染水の海洋投棄を中止しろ！ 7月21日東電申し入れ

政府は、IAEAの包括報告書をお墨付き」とし、「丁寧な説明と理解」を繰り返すだけで、海洋放出を強行しようとしている。韓国では「核汚染水放出反対」の十万規模の集会や全国各地で集会デモが連日行われている。7月3日（15日の民主労総ゼネスト闘争40万人が決起）の主要課題の一つとして「核汚染水海洋投棄中断」を掲げ闘い抜いた。動労千葉はこの民主労総の闘いに応える意味でも、7月21日東京電



東電本社に申入れる 中村副委員長

力本社に
対して、
3・11反
原発福島
行動実行
委、NA
ZENの
三者の共
同申し入
れを行い、
新橋デモ
に決起し
た。

原発汚染水を海に流すな！

7・30いわき行動

7月30日、茨城県いわき市労働福祉会館において、「原発汚染水を海に流すな！いわき行動」が、

3・11反原発福島行動実行委員会の主催で開かれた。動労千葉も動労総連合水戸のよびかけで急ぎよ駆けつけた。会場は満杯で人が溢れ、冷房が効かないほどであった。

全国からの訴えの冒頭に動労千葉・関委員長がたち、韓国では、汚染水海洋投棄反対の闘いが大きく巻き起こっており、民主労総の仲間が反対の先頭に立ちあがっていることを紹介し、労働組合として核と戦争に絶対

に反対していくこと、11月労働者集会への結集を訴えた。

総連合水戸の照沼委員長は、自身が被曝労働に直面するなか動労水戸への結集を決意した経緯に触れ、戦争反対を貫く労働組合として被曝労働を拒否する闘いがあつたこと、この時代に闘



う労働組合を復権させることが必要だと訴えた。総連合水戸の石井書記長の基調報告をはさんで、京都府職員労組舞鶴支部、三里塚反対同盟、全学連、8・6ヒロシマ大行動実行委などから熱烈なアピールがあつた。

また、福島から新地町漁民のビデオメッセージ、希望の牧場よしざわの吉沢正巳さん、原発労働者から「汚染水放出は今からでも阻止できる」「(闘いの)覚悟はいいか」等の檄が飛ばされた。

集会後、ただちにいわき駅に向かってデモに出発。熱い一日を闘いぬいた。

核汚染水海洋投棄阻止！

民主労総が来日

7月29～8月1日、日本の汚染水海洋投棄に反対して韓国からヤンギョンス委員長はじめ9名の民主労総代表団が訪日。動労千葉から渡辺書記長、山田護特別執行委員がソウル本部キムホジヨン事務所長らと合流。ともに声を上げた。

